

# 令和2年度教育委員会定例会会議録

【日時】 令和2年12月25日（金）

【開会】 14時00分

【閉会】 15時10分

【場所】 第3庁舎15階 第1・2・3会議室

## 【出席委員】

教育長 小田嶋 満

委員 高橋 美里

委員 石井 孝

教育長職務代理者 岡田 弘

委員 岩切 貴乃

委員 田中 雅文

## 【出席職員】

教育次長 石井 宏之

教育委員会事務局担当理事 総務部長事務取扱 亀川 栄

教育政策室長 田中 一平

教育環境整備推進室長 水澤 邦紀

職員部長 石渡 一城

学校教育部長 森 有作

生涯学習部長 前田 明信

総合教育センター所長 市川 洋

庶務課長 榎本 英彦

庶務課担当課長 瀬川 裕

教育政策室担当課長 二瓶 裕児

指導課担当課長 濱野 雄功

指導課指導主事 五味 博

文化財課長 服部 隆博

文化財課課長補佐 河野 正伸

カリキュラムセンター室長 辰口 直美

カリキュラムセンター担当課長 宮嶋 俊哲

カリキュラムセンター指導主事 伊藤 悦子

カリキュラムセンター指導主事 越 有里

カリキュラムセンター指導主事 松本 崇

カリキュラムセンター指導主事 吉田 崇

調査・委員会担当係長 長谷山 大介

書記 間山 篤史

## 【署名人】

委員 岩切 貴乃

委員 石井 孝

(14時00分 開会)

## 1 開会宣言

【小田嶋教育長】

ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

## 2 開催時間

【小田嶋教育長】

本日の会期は、14時00分から15時00分までといたします。

## 3 会議録の承認

【小田嶋教育長】

10月の定例会、11月の定例会及び臨時会の会議録を、事前にお配りし、お目通しいただいていることと思いますが、承認してよろしいでしょうか。

【各委員】

<承認>

## 4 傍聴（傍聴者 3名）

【小田嶋教育長】

本日は、傍聴の申出がございますので、「川崎市教育委員会会議規則」第13条の規定により、許可することに異議はございませんでしょうか。

【各委員】

<了承>

【小田嶋教育長】

また、「川崎市教育委員会傍聴人規則」第2条の規定により、本日の傍聴人の定員を20名程度とし、先着順としてよろしいでしょうか。

【各委員】

<了承>

【小田嶋教育長】

異議なしとして傍聴を許可いたします。

## 5 署名人

### 【小田嶋教育長】

本日の会議録署名人は、「川崎市教育委員会会議規則」第15条の規定により、本職から指名いたします。

岩切委員と石井委員にお願いいたします。

## 6 報告事項

報告事項 No. 1 陳情第1号（川崎市の図書館の充実と今後のあり方に関する陳情）の報告について

### 【小田嶋教育長】

それでは、報告事項に入ります。

「報告事項No. 1 陳情第1号（川崎市の図書館の充実と今後のあり方に関する陳情）の報告について」の説明を、庶務課担当課長、お願いいたします。

### 【瀬川庶務課担当課長】

教育委員会宛ての陳情を受け付けましたので御報告いたします。はじめに、書記より読み上げさせていただきます。

ー陳情第1号読み上げー

### 【瀬川庶務課担当課長】

本日の教育委員会では、陳情の取扱いについて御協議いただきたいと存じます。

また、陳情者より意見陳述を希望する旨の申出がございましたので、意見陳述の可否について、また、認める場合は何分程度とするか、併せて御協議いただきたいと存じます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

### 【小田嶋教育長】

ただいま報告のありました陳情第1号の取扱いにつきましては、今後審議していくということによろしいでしょうか。

### 【各委員】

<了承>

### 【小田嶋教育長】

次に、陳情の意見陳述についてでございますが、これを認め、その時間については10分程度ということではいかがでしょうか。

### 【各委員】

<了承>

【小田嶋教育長】

それでは、そのように決定させていただきます。

報告事項 No. 2 教育委員会の権限に属する事項に係る教育長の臨時代理の報告について

【小田嶋教育長】

次に、「報告事項No. 2 教育委員会の権限に属する事項に係る教育長の臨時代理の報告について」の説明を、指導課担当課長、お願いいたします。

【濱野指導課担当課長】

よろしくお願いいたします。

それでは、「報告事項No. 2 教育委員会の権限に属する事項に係る教育長の臨時代理の報告について」御説明いたします。

資料の1枚目をごらんください。

「川崎市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則」第3条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に代理をいたしましたので、同条第2項の規定に基づき、御報告し、承認を求めるものでございます。

はじめに、「1 臨時代理した事項」につきましては、本年5月26日の教育委員会にお諮りし、承認していただいております「令和3年度川崎市立川崎高等学校附属中学校の入学者の募集及び決定に関する要綱」の一部を改正して、「(2)」のとおり、検査方法を「作文を含む適性検査及び面接による検査」から「作文を含む適性検査」に変更するものでございます。

次に、「2 臨時代理を行った日」は、令和2年12月2日でございます。

次に、「3 臨時代理を行った理由」につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、検査方法の「面接による検査」を中止することにつきまして、受検者である小学生及び保護者に早期に周知する必要がございましたので、教育長が臨時に代理したものでございます。

1枚おめくりいただき、資料1「新旧対照表」をごらんください。右の欄が改正前、左の欄が改正後でございます。改正前の要綱では「4 検査方法」の「(1) 附属中学校の校長は、作文を含む適性検査及び面接による検査を行う。」としておりましたが、「面接による検査」を削除し、改正後は「作文を含む適性検査を行う。」と変更させていただきました。

1枚おめくりいただき、資料2「選考基準」をごらんください。こちらは、志願者に配付しております「受検案内」に記載されております「選考基準」の「選考資料」と「選考方法」でございます。

「選考資料」の枠内の中央、「②面接」の部分をごらんください。附属中学校における面接による検査では、「集団面接」を実施しておりまして、質問に対する答えの内容、受け答えの仕方や態度などから、6年間学ぼうとする意欲や目的意識、コミュニケーション能力等を総合的に見ることとしており、例年、1グループを7名程度で、30分間の面接を、検査当日の午後に実施しております。

面接による検査を中止とした理由でございますが、新型コロナウイルス感染症が終息傾向に至っていない状況で、多数の受検者が昼食をとり、グループ面接を実施し、受検者によっては、長時間待機することを踏まえすと、感染防止対策を講じて適切に実施することが困難であると判断し、中止といたしました。

中段の「選考方法」の枠をごらんください。例年、適性検査、面接による検査、小学校での学習状況をみる調査書を7：2：1の割合で換算したそれぞれの得点の合計値の高い者から合格者を決定しております。下段の「【改正による対応】」に示してありますように、面接による検査を中止といたしましたので、適性検査と調査書を9：1の割合で換算し、合格者を決定いたします。9：1にした理由でございますが、これまでも、適性と面接の二つを合わせて検査を9、調査書を1と考えておりましたので、検査と調査書の配分は変えずに9：1とすることといたしました。

1枚おめくりいただき、資料3の報道発表資料をごらんください。ただいま御説明いたしました「1」「2」の内容に加えまして、「3 濃厚接触者の対応」につきましても、条件を満たす場合には別室での受検を認めることを併せて公表しております。

これらは、川崎市教育委員会のホームページに掲載するとともに、川崎市立小学校に配付し、川崎高等学校附属中学校の志願を予定している児童・保護者への周知を依頼しております。

1枚おめくりいただき、資料4といたしまして、改正後の要綱となりますので、こちらは後ほど御確認ください。

最後に、検査当日につきましても、検温や消毒・換気、教室での距離を保つことなど、感染症対策を講じ、児童が安心して検査を受けることができるよう対応してまいります。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

#### 【小田嶋教育長】

何か御質問等はございますか。

田中委員。

#### 【田中委員】

どうもありがとうございます。コロナ禍の中、いろいろ対応すべきことがあって大変だと思うのですが、こういう入学の検査に関しても種々の対応に追われていることと思います。

1点だけ聞きたいのは、これまで「B値」ですか、面接がやはり必要だからやっていた、ということだと思うんですけども、このたび、やはり感染防止の観点からなくすのはやむを得ないことなんだろうと思うんですけども、その代わり、従来面接で評価していたものの代わりに、何か代替的なことがあり得るのかどうかということが気になります。例えば調査書の中に、面接というのはコミュニケーション能力とか意欲とか目的意識を確認することだと書いています。従来からも調査書には類似のことが書かれていたのだと思いますが、今回、取りわけそこを面接に代わるということで、それらに相当するものを調査書に特に小学校の側から丁寧に書いていただくとか、そこをよく検査のときに見るとか、そういうようなお考えはあるのでしょうか。そうなってくると、「C値」をそのまま「1」でいいのかどうかと気になるんですけども、そこはこれまでの御経験と専門的観点でなされていると思うので、それについてはいいんですが、いずれにしても面接に代わる何か代替的なものがあり得るのかなんですが、教えていただければ幸いです。

**【濱野指導課担当課長】**

ありがとうございます。

これまでも実は調査書のほうには、各教科の学習の記録3段階評価の数字のみということになっておりまして、小学校での学習状況を文書にしたようなものの記載はありませんので、今回、調査書の割合の「1」は変えないということにいたしました。

適性検査のほうにそれを踏まえるかどうかの御質問に対しましては、大変申し訳ありません。出題内容に関する質問になってしまいますので、申し訳ないんですけど、ここでお答えすることはできないことになっております。

**【田中委員】**

分かりました。そうしますと、面接でやっていたものに代わる何か評価の観点なりを入れるということは特にお考えではないということでしょうか。

**【濱野指導課担当課長】**

適性検査を9としてという形で、紙で午前中に行っている2回の適性検査を9とするということで行います。

**【小田嶋教育長】**

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告事項No.2について承認してよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<承認>

**【小田嶋教育長】**

それでは、報告事項No.2は承認といたします。

**報告事項 No.3 川崎市地域文化財顕彰制度における第3回川崎市地域文化財の決定について**

**【小田嶋教育長】**

次に、「報告事項No.3 川崎市地域文化財顕彰制度における第3回川崎市地域文化財の決定について」の説明を、文化財課長、お願いいたします。

**【服部文化財課長】**

「報告事項No.3 川崎市地域文化財顕彰制度における第3回川崎市地域文化財の決定について」御報告申し上げます。

お手元の資料の1ページをごらんください。

はじめに、「1 川崎市地域文化財顕彰制度の概要」について、「(1)趣旨」でございますが、

平成29年12月に創設した当制度は、川崎市内で、市民生活、市民文化や地域風土に根ざして継承されてきた文化財を、川崎市地域文化財として顕彰及び記録することにより、文化財が人をつなぎ、地域を守り育むまちづくりに寄与することを目的としております。「(2) 地域文化財の対象」は、法令・条例により指定・登録等がされていない未指定の文化財でございます。

「(3) 地域文化財候補の選出及び決定」でございますが、市民団体等からの推薦を受け、教育委員会事務局文化財課で候補文化財を精査し、文化財審議会での意見聴取を経て、教育長が決定するものでございます。

続いて、「2 第3回地域文化財の決定」についてでございますが、令和2年4月1日から6月30日までを募集期間として推薦を募ったところ、28件の推薦がございました。推薦を受理した文化財について、文化財課で現地調査や所有者へのヒアリング等を実施し、推薦内容を精査した上で、今回の地域文化財として推薦件数全ての28件を決定したものでございます。

次に、「3 主なスケジュール」でございますが、決定にあたりましては、関係要綱に基づき、11月19日開催の文化財審議会での意見聴取を行った上で、12月9日付けで決定したものでございまして、本日の教育委員会への報告後、市議会への報告及び報道機関等の公表を予定しているところでございます。

なお、次の2ページには、このたび、決定いたしました川崎市地域文化財の一覧表を添付しておりますので、併せて御参照願います。

第3回となる今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言が発出されている中での募集となり、どのくらい地域文化財の推薦があるかと思っておりましたが、6月に入り、市内の郷土史会や町内会・自治会関係、小学校などから応募をいただいたところでございます。件数につきましては、前回を下回りましたが、緊急事態宣言があつたにもかかわらず、約1か月の間で28件の推薦をいただいたことは、平成29年12月に川崎市地域文化財顕彰制度の創設後、少しずつですが、市民の皆様方にこの取組が御理解いただけているものと感じているところでございます。

今回の状況を踏まえ、第4回の推薦募集については、来年2月頃から広報・周知に取り組むとともに、募集案内の配布やホームページへの掲載についても年度内に実施してまいりたいと考えております。

今回決定分と合わせて地域文化財の総数は159件となりますことから、今後もホームページや案内パンフレットなどによる普及啓発に努め、市民の理解と関心をより高めていく取組を引き続き推進してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

**【小田嶋教育長】**

ありがとうございます。

御質問等ございますでしょうか。

田中委員。

**【田中委員】**

度々すみません。区ごとのバランスといたしますか、数を見ると、多摩区が非常に多くて、次が高津区ということですが、実際の文化財の数はやはりそういうバランスだということでしょうか。

あるいは、これらの区が特別に何かそういう郷土史会なり何なりが活発で、特にこういうところに反応しやすいということなのか、その辺りって何か傾向はありますでしょうか。

**【服部文化財課長】**

今回は新型コロナウイルスの影響もあって、区によって市民団体等の活動の状況にやはりばらつきが見られたというのは、多分この数字に表れてきているということだと思います。その中でも多摩区については、活動団体の状況がほかの区に比べては活発であったというところが、この16件という、この数の多さに反映してくるものと思っておりますので、本来的な数字とはまたちょっと違った状況もあると思います。また第4回に向けてはこの数字をよく分析をして、周知・広報に努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

**【小田嶋教育長】**

ほかにはいかがですか。

石井委員、どうぞ。

**【石井委員】**

この指定を受けたことで、維持管理であるとかに、補助金といったものは支払われるといった補填というのはあるのですか。

**【服部文化財課長】**

地域文化財として決定された場合でございますけれども、資料5ページでございますが、要綱の第5条に、地域文化財として決定した場合には、「地域文化財証書を交付する」ということになっておりまして、次の第6条でございますが、第6条の第1項に、「地域文化財の所有者等及び管理者は、地域文化財を適切に管理し、保存・活用に努めるもの」ということになっておりまして、次の第2項に「所有者、管理者等は、地域文化財の管理や現状変更等に際して、川崎市教育委員会に助言を求めることができる。」というふうになっております。

今回、この地域文化財になった文化財につきましては、特に維持管理のための補助金というものはございませんけれども、この第6条第2項に基づきまして、所有者から、管理ですとか、あとは現状変更等、修理などの助言を求められた場合には、事務局のほうで専門の学識者の御意見を聞きながら適切に助言をしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

**【小田嶋教育長】**

よろしいですか。

ほかにはいかがですか。

よろしいでしょうか。

それでは、報告事項No.3について、承認してよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<承認>

【小田嶋教育長】

それでは、報告事項No. 3は承認いたします。

報告事項 No. 4 令和2年度川崎市立小学校学習状況調査の報告について

【小田嶋教育長】

次に、「報告事項No. 4 令和2年度川崎市立小学校学習状況調査の報告について」の説明を、カリキュラムセンター室長にお願いいたします。

【辰口カリキュラムセンター室長】

よろしくお願いします。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業があり、本市では6月からの学校再開となりました。こうした状況下ではありますが、コロナ禍での子どもの学習状況の把握をするために、本調査を実施したいという学校の思いもあり、実施いたしました。また、その結果は大変貴重な資料であり、今年度の状況を考慮し、来年度は、幾つかの設問については、類似問題を取り入れ、今年度の結果と併せて丁寧に分析をしてみたいと考えております。

本日、お手元にお配りしました横置きの冊子「令和2年度川崎市立小学校学習状況調査報告（概要）」をごらんいただきながら御報告をいたします。

はじめに調査の概要、次に国語、算数の調査結果の概要、「生活や学習についてのアンケート」、児童に配付した個票及び「ふり返しシート」、最後に、調査結果の活用について御説明をいたします。

それでは、お手元の資料、1ページをごらんください。「1 調査の目的」は「全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てる。」としております。

「2 調査の内容」でございますが、当初の予定では令和2年4月28日に一斉実施する予定でしたが、3月からの新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業により、一部学校における未習の内容に関しては、各学校の状況に応じて取り扱うことといたしました。

「4」のとおり、今年度はコロナ禍での調査のため、7月6日から10日にかけて、各学校が状況に合わせて実施日を設定し、5年生を対象に、国語と算数の調査及び「生活や学習についてのアンケート」調査を実施いたしました。

はじめに、国語について御報告いたします。2ページをごらんください。このページは「出題・観点等一覧」と、領域ごとの平均正答率を掲載しております。

3ページをごらんください。「主な成果と課題」について具体的な問題を資料の3ページ、4ページに掲載しております。問題の番号の上についている白い四角が「成果」、黒い四角が「課題」を示しております。ここではそれぞれ1問ずつ取り上げて御報告いたします。

3ページの4（1）をごらんください。内気な性格の主人公が、下級生へ読み聞かせる本を探しに図書室へ来た「広瀬くん」と会話をしている場面です。「広瀬くん」のせりふを基に、その

気持ちを捉える問題です。当該のせりふだけでなく、複数の叙述を関連させながら気持ちを捉えることが求められる出題でした。正答率は92%で相当数の児童ができています。授業において「叙述を根拠に物語の展開や登場人物の心情を捉える」ことを意識して指導してきた成果と捉えております。

4ページをごらんください。課題が見られるものとして、「送り仮名のある漢字」を書く問題を掲載しております。正答率は40.8%で、他の「漢字を書く問題」と比べると課題があります。誤答として最も多かったのは、漢字は書けているが送り仮名が未記入であったり誤っていたりするもので、30.5%ありました。要因として、漢字を習得する際に「泳ぐ」という送り仮名で認識し、文章などにおいて様々に活用した形で漢字を用いていないことが考えられます。今後も学習した漢字を多くの場面で活用しながら定着を図っていくことを重視し、指導してまいります。

5ページをごらんください。72は「授業改善に向けて注目した問題」となっております。この「授業改善に向けて注目した問題」は、それぞれの教科で例年課題となっていることや、学習指導要領の改訂において重視されていることなど、総合的な観点から取り上げています。

7は、学校の図書室をもっと利用してもらうための取組について話し合っているという場面設定でした。自分がその意見に賛成する理由を挙げて書くことを問う問題で、正答率は51.4%でした。

条件を満たしていない誤答として最も多かったのは、「なぜなら」という言葉にスムーズに接続していないもので9.6%あり、条件に即して伝えることに課題が残りました。伝えたいことに対して、自分の表現が適切かどうかを吟味するような指導の工夫が大切です。

次に、算数について御報告いたします。6ページをごらんください。このページは「出題・観点等一覧」と、領域ごとの平均正答率を掲載しております。

7ページをごらんください。15(1)は、二次元表の中の数値が表していることを読み取る問題です。正答率は82.2%であり、概ね理解できていると捉えております。これは、集めたデータを二次元表に分類整理したり、二次元表から情報を読み取ったりする際に、幾つかの観点から2つの項目を考え、各欄の意味を明確にすることを大切に学習の成果であると言えます。今後も「縦の項目」と「横の項目」についてその意味を話し合い、二次元表を活用する活動を充実させていくことが大切です。

8ページをごらんください。8(2)は、180度より大きい角の大きさを測定することができるかどうか見る問題です。正答率は49.2%であり、分度器を使って180度より大きい角を測定することについては課題があります。また、(1)の正答率が68.1%であることから、角の大きさに見当をつけることと測定することが関連していないこと、誤答の「130度」が35.5%であることから、分度器の0度の線を基に時計回りに読んでいることが明らかになりました。今後の学習指導にあたっては、角の大きさの見当をつけてから、「90度の何個分」や「180度と、あと何度」などの根拠を明らかにして、角の大きさを測定することが大切となります。

9ページをごらんください。「授業改善に向けて注目した問題」です。7は、買い物などの日常の場面を取り上げ、1,000円で買物ができるかどうかを判断するために、切り上げて概数を用いる問題です。切り上げの意味やその方法を理解しているかを確認したり、目的に合った数の処理の仕方を考えたりすることができることを狙いとしています。主な誤答として「500+200+200」としているものが33.2%ありました。これは、四捨五入の方法は理解し

ているものの、1,000円で買い物ができるかどうかを判断する場面を捉えずに、切り上げの目的を理解していないことが分かります。指導においては、児童が場面を判断する活動を意図的につくり、場面にふさわしい端数の処理を検討する活動を取り入れていくことが大切になります。単に知識・技能を身につけるだけでなく、これらを活用し問題を解決するような思考力・判断力・表現力等を育み、まさにこの問題のように、数学的な見方・考え方を働かせ、算数を日常生活に生かそうとする活動を取り入れていくことが大切です。

国語と算数の調査を通して見ると、「自分の表現が適切かどうかを吟味すること、処理の方法が場面に合っているか判断すること」などには課題が見られました。このことは国語や算数だけではなく、学校教育活動を通して、今後もこのような課題の改善に向けた取組を系統的、継続的に進めてまいりたいと考えております。

続きまして、「生活や学習についてのアンケート」でございます。10ページをごらんください。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業が実施され、児童が家庭で過ごす時間が多くありました。そのため、例年、経年で変化を見ております項目に加え、家庭での過ごし方についても御報告いたします。

最初に、学習全般に対する意識についてです。

「好感度」について、「すきだ」「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童は61.7%、31年度と比較すると6.8ポイント減少しております。「必要性」については、「大切だ」「どちらかといえば、大切だ」と回答した児童は97.6%となっております。

11ページをごらんください。「勉強する一番の理由」に「将来の仕事に役に立つから」「生活するのに役に立つから」を挙げている児童は、合わせると64.4%となっており、「わかると楽しいから」と回答している児童は17.9%で、いずれも31年度と同程度となっております。また、授業で分からなかったときの解決方法として「自分で調べる」と回答した児童は63.6%で、31年度と比較すると7ポイント増加しております。

12ページをごらんください。各教科の「好感度」は全ての教科において6割以上の児童が「すきだ」「どちらかといえば、すきだ」と回答しておりますが、31年度と比較しますと全ての教科で減少しております。今年度から実施しました英語につきましては、72.5%の児童が学習に肯定的な回答をしております。13ページをごらんください。各教科の「理解度」では、全ての教科で8割の児童が肯定的な回答をしております。14ページをごらんください。生活での「有用感」は、国語、算数が9割を超える結果となっております。しかし、「好感度」「理解度」「有用感」いずれも、31年度と比較しますと肯定的な回答が減少しており、特に「好感度」についてその傾向が顕著に表れております。

15、16ページは生活の実態についてです。

15ページをごらんください。家庭での過ごし方を見ても、睡眠時間が少なくなっている児童が増加していること、携帯電話やスマートフォンを使用している児童が増加していることが挙げられます。しかし、16ページにある朝食の摂取率や1か月の読書量には大きな変化は見られませんでした。

17ページをごらんください。自己肯定感・将来に関する意識について御説明いたします。

「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童は、31年度と比較すると今年度は減少しております。

続いて18ページをごらんください。これらの質問をクロス集計したものでございます。

学校が「楽しい」と回答する児童ほど、勉強が「すきだ」と回答する割合が高く、学校が「楽しくない」と回答する児童ほど、勉強が「すきではない」割合が高くなっております。また学習の「好感度」と「勉強をする一番の理由」のクロスでは、勉強が「すきだ」と回答する児童ほど、「わかると楽しいから」と回答する割合が高くなっております。一方「すきではない」と回答する児童では、「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した児童が15.8%でした。

19ページをごらんください。家庭での生活に着目した「睡眠時間」を縦軸にしたクロス集計です。睡眠時間が短いほど、学校が「楽しくない」、「テレビゲームの実施時間」が長い結果となっております。

20、21ページをごらんください。「自己肯定感」を縦軸にしたクロス集計です。20ページの「国語・算数の正答率」「将来の夢や目標」、21ページの「地域への貢献度」「周囲への援助」との結果で、いずれにおいても、「自分にはよいところがある」と回答している児童ほど高くなっております。

これらのことから、児童は学校生活の様々な経験から、学習の大切さを感じたり、自己肯定感を高めたりしていることが改めて分かります。子どもたちがこれからの未来を展望し、学ぶ意義を肯定的に捉え、主体的に学習に取り組んでいくことが大切です。学習活動をはじめ、学校行事や学級活動など、教育活動全体で互いに認め合う活動を継続して行い、一層多くの児童が自分のよさに気づいていけるよう、取組の充実を図ってまいりたいと考えております。

続いて22、23ページをごらんください。児童・保護者に提供する個票になっております。

24ページをごらんください。今年度から配付する「児童個別ふり返しシート」になっております。児童の学習状況に応じてフォローアップ問題を提供し、児童一人ひとりの課題を改善できるようにしております。ここでは算数の例を掲載しております。児童ごとの課題に応じて、知識及び技能の習得を重視した問題や、思考力・判断力・表現力等を育むような問題を提供しております。

今後とも、調査から明らかになった本市の成果と課題を把握し、各学校の学力向上の取組を支援してまいります。

以上、「令和2年度川崎市立小学校学習状況調査」、「調査報告(概要)」について御報告させていただきました。よろしくお願いいたします。

#### 【小田嶋教育長】

どうもありがとうございました。

資料、大分量も多くなっておりますので、委員には事前にお目通しいただいておりますので、また今の説明と併せて、まず質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

石井委員、どうぞ。

#### 【石井委員】

先ほど、分からないことを「自分で調べる」といったところが7ポイント上昇しているということで、多分スマホであるとかパソコンであるとか、いろいろな本以外でもネット上から自分で答えを見つけられるという、そういったいわゆる選択肢が広がってきたという結果から自分で調べるというのができてきたのかなとは思いますが、実際にはどんなことなんでしょうか。もしお分かりになれば。

**【小田嶋教育長】**

お願いします。

**【辰口カリキュラムセンター室長】**

具体的に何を調べているというところでは、質問紙のほうからは読み取りができません。学校から課題なり出ていたりとか、あるいは自分で動画とか、あるいは教育のテレビとか、そういうものを調べていく中で、自分の中での時間というところもあります。そのようなところから、学校の課題を自分で解決していくとか、あるいは考えてやってみようというものが見られたのかなと思います。限られた時間ではなくて、ある程度の時間があるという部分でも、自分の力で取り組んでみようという思いは持ってたのかなというようにこちらは思っているところです。実際にどういうところをやったのかというところは申し訳ないんですが、質問紙には・・・

**【石井委員】**

何で調べたとか、そういったようなものはないんですね。

**【辰口カリキュラムセンター室長】**

そういうものはなかったので想像でしかないんですが、時間がある程度ある。だから、自分でもいろいろチャレンジするとか調べてみようというところはあったのかなというようには思っております。

**【石井委員】**

安易に親だとか周りに聞かないで自分で深めるというか、自分で疑問をもう一回解決していこうと、そういう道筋を見つけていこうということが自主性というか、学習に対してのそういう意欲が上がっているというふうにも考えていいんですかね。

**【辰口カリキュラムセンター室長】**

一概には今年度だけの結果では言えないと思いますが、例年とはやっている状況が違います。コロナ禍の中での調査でしたので、単純に前の年と今年度とかいうものでは言えないとは思いますが、そのためにまた、来年度似たような設問あるいは状況をまた踏まえながら、7ポイント増加していますが、どのようになっているのかを考えていきたいと思っております。

**【小田嶋教育長】**

よろしいでしょうか。ほかにはいかがですか。

高橋委員。

**【高橋委員】**

コロナのいろいろ対応で大変な中、また今年度も調査をしていただいて大変ありがとうございました。感謝を申し上げます。

私、この資料を読むのが3回目になりますので、今回はちょっと厳しめにお話をさせていただ

きたいと思います。

まず、多分毎年私も、あと、ほかの前にいらっしゃった委員の方もおっしゃったと思うんですけども、こちらの調査、やっぱり非常に長期間している調査になりますので、いつも資料が3年分の数字しか出てこなくて、正直資料としても、この冊子は学校の先生に配られるのかなと思うんですけど、数字がばつと並んでいたりすると、経年の変化とかもすごくすぐにつかみづらくて、結構いつも資料として読むのにすごく苦労しているところがあります。データとしては、多分総合教育センターのほうで前のデータも公開してくださっていますし、私のほうも昔のデータを自分で入力したりして見ているのですけれども、やっぱりもう少し10年とか、長いスパンで見ると、1回例えば「勉強がすきですか」というところだと、私、手元に平成19年からのデータがあるのですけれども、やっぱり19年ぐらいから大体横ばいで、平成24年ぐらいから一回上がって、ちょうど28、29、30ぐらいで上がっていい感じだったのが、ここ2、3年ちょっと下がってきているというのが大きなグラフで長く見るとそういうのが分かっていて、特に今年コロナなので、がくんといろいろ学校への肯定的な気持ちとかが減っているんですけど、それってちょっと前もちょっと下り傾向みたいなのが長く見ると見えたりするので、もう少し長い目でやっぱりデータを見ていただきたいですし、それを学校の先生方にやっぱり提示していただきたいなというふうに思います。

国語と算数の各学習の調査については、問題もずっと経年で同じような範囲の問題ですとかをずっと出していただいている、こちらの詳細な資料のほうにはそういう解説とかも載っているので、なかなか、やっぱり数学も国語もこの3年ぐらい正答率が50を下回るところというのは大体同じ分野だなというところは、今年も同じ傾向だったと思います。なので、それについて、多分何かしらいろいろ取組をされていると思うので、そういう説明をしていただけたほうが、こちらとしてはありがたいなというふうに感じました。

それからあと、アンケートの調査のほうもすごくたくさん項目をしていただいている、すごく大事な資料だと思っています。なので、そちらもやっぱり増えた減ったというのは見れば分かるころなので、どうして増えたのかとかどうして減ったのかというところを分析とか考察をしていただいたものを一緒に共有していきたいなという気持ちがあります。

これの後にもっと深い考察をされているということも毎年お聞きはしているんですけども、共有していただくとありがたいなというのと、私たちだけじゃなくて、現場の先生方にもその情報を共有していただきたいなというふうに思っております。

あと、2つ質問がありまして、いつもだと4月に試験をして、8月か9月に説明会があって、学校の先生方に説明していると思うんですけど、今年は集めて説明できないというところで、現場の先生方に、国語、算数で書かれているような学習の指導の改善の部分とか、どのように説明をされたのか、またされる予定なのかということと、あと、小学校「勉強がすきだ」という気持ちがすごく子どもたち強いのが、中学校になると減ってしまうというお話を去年しました。その辺りで、中学校と小学校で、小学校のいいところを共有していただけるといいなというお話をしたんですけど、何かお話が進んでいたらということ、その2点が質問です。お願いします。

**【小田嶋教育長】**

お願いします。

**【松本カリキュラムセンター指導主事】**

ありがとうございます。

今、お話があったとおり、4月当初の予定が臨時休業に伴って7月に実施することになりました。その後、分析等々ありまして、先生方のほうに、今お話があったとおり、集会形式での分析経過、また、授業の手だてということを説明することができていないというのは現状でありますし、この後、1月、2月に関しても同じような状況でありますので、そのような形は取れないかなというふうに思っております。今、話をしているのは、何か私たちのほうでこの分析したものを動画だとかに載せていこうかなというふうな話は出ておりますので、それらの方向で進めているところではあります。

**【小田嶋教育長】**

小中のつながりの部分をお願いします。

**【松本カリキュラムセンター指導主事】**

今お話があった、小学校から中学校に行くときに数値がどうしても下がってしまうというところなんですけれども、「中1ギャップ」という問題もいろいろありますので、私たちのほうも要請をする、または学校のほうに伺うときには、それぞれの教科の指導主事のほうから、こちらのほうのデータも共有はしておりますので、各学校のほうに、中学校のほうに共有をしているようなところではあります。また、教科だけではなく、領域のほうでもお話をしているところでもありますので、少しずつではありますが、私たちのほうでも現場の先生方には周知しているようなところではあります。

**【小田嶋教育長】**

補足で、お願いします。

**【辰口カリキュラムセンター室長】**

先ほどの高橋委員からの要望ということで、御意見を聞きましたので、またこちらでも経年変化のとなり、いろいろ報告の仕方のごことで御意見いただきましたので、またそれは検討させていただきます。

**【高橋委員】**

お願いいたします。ありがとうございました。

**【小田嶋教育長】**

ほかにはいかがでしょうか。

岩切委員。

**【岩切委員】**

本当にコロナ禍の大変な中、こういった調査を継続的にしていただいて、本当にありがとうございます。タイミングが違ったとはいえ、大体傾向というものはつかめるんじゃないかなと思います。

ながら、この調査の傾向を拝見させていただいたんですけれど、やはり相談相手のところ、やはり7ポイントの増加という、この「自分で調べる」というのが7ポイント増えているというのは、やっぱり顕著だな、というふうに思うんですね。これがやっぱりコロナの影響なのか、あるいは周りに自分で調べられるツールがかなり整ってきたことが原因なのか、何かその辺もすごく気になるところで、来年から「GIGAスクール構想」が本当に本格的に始まりますし、自分で何かをやろうといったときに、大人の人たちよりも、もしかしたら専門的なものを調べられるツールというのが出てくるかもしれない。そのときにどういうふうに変わっていくのか、というのをぜひしっかりと見ていっていただきたいなというふうに思いました。

そういった中で、やっぱりコンピュータとかスマホとか、そういったものを子どもたちが使っている時間も増えているなというのはちょっと顕著に感じられますので、その辺を何かもう少し調べられるような方法があれば少し工夫していただけるとうれしいなと思いますので、ぜひよろしくお願いたします。

#### 【辰口カリキュラムセンター室長】

ありがとうございます。先ほど石井委員からも7ポイントのことはありましたので、またこの辺り、先ほども説明しましたが、今年度と、あとまた次年度ということで注目をして見ていきたいと思います。ありがとうございます。スマホの件も、またそのことについては考えていきたいと思います。

#### 【岩切委員】

もう1点、私は理科系のほうで少し興味を持って拝見させていただいて、理科の好きな子どもたちって、実は結構多いんだなというふうに思う一方で、生活で役に立つかというところであまり役に立つように思っていないというのにすごくショックを受けているんです。もしかしたら、これって学校の先生自体があまりその辺を感じられないというか、小学校ですので、専門科目が必ずしも理科じゃない先生が大勢いらっしゃるという中で、そういったところも少し反映されちゃっているのかな、というのが少し気になる場所でした。こういったところ、ネガティブなフィードバックではないんですけれども、こういったところをちょっと工夫のほうに改善のほうにもう少し回していただけるとうれしいなと思いました。ちょっと感想で申し訳ないですけども。

#### 【辰口カリキュラムセンター室長】

ありがとうございます。

こういうところも小学校は前回やっておりますし、理科の例えば専門的なところの実験というところでは、苦手なところを持っている先生もいるかと思います。理科の指導主事、その辺りはいろいろ若い先生方とか、実験というところでは考えて、理科にやはり気持ちが前向きになるように研修等を行っているところですので、また委員の意見も参考にして考えてまいりたいと思います。

#### 【小田嶋教育長】

今の岩切委員の御指摘の部分って、やっぱりすごく大事なところで、理科に限らず、「キャリア在り方生き方教育」の推進の中で、いろいろな教育活動が、今勉強していることが、体験してい

ることがどういうところに将来つながっていくのかということ、子どもたちではなく、まず指導者が、教員の側がしっかり意識して、それを系統立てて計画していきましょう、というのが「キャリア在り方生き方教育」で、まさにその部分で重なるところがあると思いますので、大きな課題として受け止めて、また全体で考える必要があるかなと思います。

あと、インターネットやスマホ等の機器の使用については、内閣府が毎年、年度当初に子どもたちの機器の利用とか時間とか、かなり詳細な調査をこのところずっと続けて出していて、私も非常に注目していて、ここ数年、何年か前に、中学生のスマホ所持率が50%を超えたというのが3年ぐらい前ですかね。もうそれからうなぎ登りの状況なので、ちょっとそういった調査も注目していく必要が、併せて考えていく必要があるのかなというふうに思います。

ほかに。

田中委員、どうぞ。

**【田中委員】**

どうも詳細なデータをありがとうございました。時間の関係もあるので簡単に済ませますけど、質問3つと意見1つを述べたいと思います。

まず、質問ですけど、1番目、4ページなんですけど、『泳ぐ』は書けているが、送り仮名が未記入または誤り」が30.5%なんですけど、これは「分母が何か」ですけど、全体の子どもたちを100%としたときの30.5なのか、誤った回答あるいは無回答のものを100としたときの30.5なのか、そこはどちらでしょうか。

**【辰口カリキュラムセンター室長】**

分母全体の30.5%です。

**【田中委員】**

分かりました。全体の子どもたちを100としたときの30.5ですね。分かりました。

それでは、2番目ですけども、9ページなんですけど、とても難しい問題だと思うんです。私なんかは頭が固いほうなので、切り上げといってもどこで切り上げるのかということに迷ったりして、それで答えられなかった子がいたのかもしれないかな、と思ったりしたんですが、これは、例えば「470+200+250」でも正確なんですか。

**【松本カリキュラムセンター指導主事】**

はい。

**【田中委員】**

分かりました。了解です。

3つ目の質問ですけど、11ページ、先ほどから御質問が出ていますけど、「自分で調べる」というところの関係なんですけど、人に聞きながらいくということの重要性と、自力で解決することの重要性と両方あると思うんですが、教育委員会ないし学校としては、どちらが奨励すべき行動と思っておられるのですか。二者択一というわけにはいかないんでしょうけど、バランスの問題もあるんですが、要するに、人に尋ねて回答するというのと、自分自身で調べて回答すること

と両方大事なので、どちらか一つということではないんでしょうけれども、教育委員会のお考えとしては、この辺りはどう考えておられますか。

【辰口カリキュラムセンター室長】

委員のおっしゃるとおり、どちらがという、どちらが上位でというところは一概には言えないと思います。ほかの人の力を借りて自分自身が解決できて成長できるというのも、そのとおりだと思いますし、自分でやはり地道にというか、コツコツやっていって成し遂げるということも大事だと思っています。すみません、その辺りどちらかというところはなかなか言いがたいところですね。すみません。

【田中委員】

分かりました。要するにどちらも大事だと思うので、両方進めていくのかなと思いますので聞いてみたのですけれども。大丈夫です。ありがとうございました。

それでは、最後、意見なんですけれども、意見の前に確認ですけれども、随分長年やっていらっしゃる調査ということで、項目は毎回大体同じなんでしょうか。というのは、ここ何年かの間、教育学の分野では、学力や学習意識と人間関係との関係、要するにいわゆるつながりと学力とは相関があるということが幾つかの側面から研究成果が出ているんですけれども、例えば、子どもたち同士の関係とか、先生と子どもの関係とか、地域の大人と子どもの関係とか、そういうことはこの生活状況調査として聞いてはいないんですよね、この調査では。

もしできましたら、その辺を聞いていくと、何か学力とか学習意識を高めるための政策的な課題が見えてくるのかなという気もするんです。特に地域の大人との関係は学習意欲と関係があると言われていて、これがもしかしたら疑似相関なのかもしれないんですけど、本当に大人との関係の中でいろいろ価値観や生活観が広がり、学習にも意欲が湧いたりだとか、落ち着いた人間関係の中でこそ、落ち着いて学習に向かえるということがあると思うし、いずれにしても、その人間関係と学習意欲の関係は割と無視できないと言われてるので、その辺りも調査してクロス集計などにやっていくといいのではないかなと思うんですね。

というのも、川崎の場合、「地域の寺子屋」事業とか地域教育会議はかなり力を入れてやっていらっしゃるんで、そういう活動が学習意欲に効いているとか、成績とも関係してくるとか、その辺りがもしつながってくると、これからのコミュニティスクールとか、地域学校協働本部もかなり推進していけますので、地域教育ネットワークというのもこれからつくっていくかと思うので、いわゆる子どもの健全な成長というだけではなくて、学力にもそのようなものが効いてくるのかなということを確認していく上で大事なかなという気もするんですね。

特に例えば人間関係で言うと、秋田県の東成瀬村の東成瀬小学校ってかなりトップクラスの学校で有名になったところで本もあるんですけど、たまたま私のところの修士課程の学生がその辺りの出身なので修士論文でやったんですけれども、相当やはり濃密な人間関係の中で子どもたちは学習していることが分かりました。特に、成績がいいというのは、トップクラスがたくさんいるんじゃなくて下がいないということで、だから平均値が上がる。それは同時に川崎の教育の方針でいくと、共生教育を重視するとか、特別支援を充実させるということを見ると、いわゆる、言葉は悪いんですけど、落ちこぼしていくような子どもたちが防げるというか、そういう効果も人間関係の充実ということにおいて生まれてくるかもしれないので、その辺り人間関係と学

習意欲や成績との関係を、今後は可能な範囲で調べていけるといいんじゃないかなと思いました。  
以上です。

【小田嶋教育長】

ありがとうございました。  
岡田委員。

【岡田教育長職務代理者】

今、田中委員がおっしゃっていただいたことを私も思っていたんですけども、お話をくださったので、別の視点でお話させてください。

4年生までの、ということは、現行の学習指導要領ではなくて、一つ前の学習指導要領の内容を調査しているという意味でございますよね。今年度から新しい学習指導要領になりますので、視点が少し変わってきているというか、そう考えたときに、調査方法とかいろいろ変わってくるだろうな、というふうには思うんですけども、今年はコロナ禍の中でやっていますので、いわゆる介入変数がすごくあると考えていくと、例えば「何%下がっている」というのは、言い方を変えると「何%しか下がらないで止まっている」という、要するに、子どもたちと先生方を何か勇気づける、ちょっと言葉が変なんですけれども、「すごく頑張っているからこれしか下がってないんですよ」という言い方もできるかもしれないので、先生方の頑張りとか、その先につながるような報告というか、それも入れていただくとすごくいいかなというふうに思いました。

それで、令和の日本型学校教育が目指すのは、「GIGAスクール構想」でも言われるように、「個別最適化」でありますので、「個別最適化」という視点に立ったとき、例えばですけど、易しい日本語が必要な、つまり外国にルーツを持っている子どもたちが一体どのくらいの点数を取っているのかというのを示していて、何かそこが一つの新たな視点になったりする可能性もあるんじゃないかな、というふうには思いました。そういった意味で、さらに多様な見方というか、あるいは検査の仕方というのもありかな、というふうには思いました。

それから、「GIGAスクール構想」のことを考えると、やっぱり読書がすごく大事だと私は思っていて、この16ページのところで読書量についての調査がありますので、実は川崎の教育、学習を押し上げていくためには、いかに国語が大事かというのがあって、そのために長文を読むとか、そういう意味で読書量の調査ってすごく大切だろうな、というふうに思います。

それで、国のやっている調査もあるんですけど、最近では、漫画で読んだほうが教科の内容が非常に理解できるとか、一例でいくと、「まんが 日本の歴史」でしたっけ、あれを読んだほうが実はよく分かるかというお子さんたちもいて、漫画が一概に駄目とも言えないんじゃないかとか、または「YouTube」を使って育ってきたお子さんたちですので、実はそういう読書という捉え方をどうするのかという視点も必要んじゃないかなというふうに思います。

つまり、新しい、今年から始まっている学習指導要領の視点をどういうふうに取り入れていって、先生方がいいというか、元気が出るというか、子どもたちも元気が出るというか、何かそういうものにさらにしていただきたいなというふうに思います。

それと同時に、一人ひとりにそれぞれに「GIGAスクール構想」でパソコンが手に入りますので、「eポートフォリオ」との連携をどういうふうにするか。つまり、自分の学習状況の蓄積が自分でどう分かるかだとか、あるいはそれをさらにどうつなげるかだとか、2年後にスタートす

るデジタル教科書ですかね、今度はそこではたしか学習者用デジタル教科書の視点が入ってくるはずなので、自分で過去の学習を学ぶことができたり、場合によっては先にも進めちゃう、そこはこれからのことで、先に進んでしまうということはそれは出過ぎてしまいますので、先のために進まないようにというふうにも考えているらしいんですけども、デジタル教科書が入ってくると、また様子が変わるんじゃないかな、というふうに思いますので、何かちょっと先を見据えて、先につながるような調査なんていうのも入れておいて、川崎の教育がよりよくなっていくために、さらに何か調査方法等を工夫いただけるとありがたいなというふうに思いました。

感想めいたものになってしまったんですが、ぜひこれを生かして行って、川崎の教育ここにあり、というふうにぜひ持っていきたいなというふうに思っているものですから、ちょっと先走っているいろいろなことを申し上げましたが、どうぞ引き続きよろしく願いいたします。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございます。

最後に高橋委員、時間の関係もありますので。

#### 【高橋委員】

細かいところで、アンケート調査の項目でちょっと気になったものがあつたので、今後どうしというよりは、今後ちょっとチェックして行ってほしいなというものを言います。

こちらの「学習状況調査報告書」の問47「日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書こうとしていますか」という項目が、今年は大きく下がっているんですけど、これ多分もうちょっと長く見ても、平成30年までは大体2割ぐらいで「書こうとしている」というのが大体推移していたのが、ちょっと下がり傾向になるので、そこを、書く活動とか発表する活動ってすごく学校で増えているとは思っているので、その活動が増えているのに数字が下がっているのは、ちょっと気になっているところです。

それからもう1つ、外国語活動の問70、71の「外国人と友達になりたい」とか、「外国に留学したい」という外向けの思考のところ、これは平成30年から取っているデータだと思うんですけど、だんだんちょっと下がっているところが寂しいなと思っているので、英語をやるということと一緒にグローバルな意識を高めるところはちょっと見ていただきたいなと。

あと、すみません、もう1つ最後、総合のところの問73の「情報を集めて、整理したりまとめたりするやり方がわかるようになったと思いますか」というところの、これはかなり総合的な学習の時間のキーになる能力だと思うんですけども、ちょっと数字が若干下がりがみだなと思うので、その辺りもちょっと今後チェックしているところなどに反映して考えていただきたいなというふうに思います。

以上です。

#### 【小田嶋教育長】

ありがとうございました。

いろいろ御指摘いただいた部分で、来年度から「GIGAスクール構想」が推進していく中で、指導方法、学習方法も非常に大きく変わっていきますし、社会の変化も大きいので、一度、今ま

での経年でやってきている部分と、新たな視点でもう一度見直していくということが当然出てくるのかなと思いますので、今いただいた御指摘も生かしながら、また考えていただければなというふうに思います。

それでは、報告事項No. 4について承認してよろしいでしょうか。

**【各委員】**

<承認>

**【小田嶋教育長】**

それでは、報告事項No. 4は承認いたします。

**【小田嶋教育長】**

傍聴人の方に申し上げます。本日の日程は以上でございますので、傍聴人の方は御退室くださるようお願いいたします。

## 7 閉会宣言

**【小田嶋教育長】**

それでは、本日の会議はこれもちまして終了いたします。

(15時10分 閉会)